ひょうごの 地域と学校の協働活動

令和 4 年度版

発行
兵庫県教育委員会事務局社会教育課
〒650-8567
神戸市中央区下山手通5丁目10番１号
TEL：078-341-7711（代表）
兵庫県教育委員会社会教育課　04教P4-028A2

地域に出ていく

【稲美町】

地域で行うボランティアや地域の方と中学生との座談会
つながる人 / つながる心 / つなげる夢・未来

稲美町では、地域のつながりの希薄化、コミュニケーションやふれあいの機会の減少という、地域の課題がありました。そこで、稲美中学校では、ふれあいや交流を通して、地域の担い手である子どもたちを育てようと取組が進められています。

●共につくる学校行事
・防災をテーマにした「ふるさとデー」

●地域に出かけるボランティア交流活動
・さくらウォーキング（小学校区まちづくり会）
・いなみっこ広場夏祭り（町子育て交流施設）
・いなみ冬景色ライトアップ（商工会青年部）など

●地域の方と中学生の座談会
「私たちの稲美町をこんな町にしたいねん。中学生にできること、したいこと」をテーマに、地域の方と中学生がともに話し合いを実施

こうした取組を通じ、子どもたちの「ふるさと意識」が育っています。

ふるさとデーの防災学習

地域の方との座談会

ここに着目

これらの取組の中心にあるのが、学校運営協議会です。「ふるさとデー」では、その企画・運営を学校運営協議会の委員が行っています。校区のまちづくり活動や町商工会など地域のネットワークを生かすことで、教員の負担を増やさずに、生徒たちが地域の活動に参加できています。

地域の方から学ぶ

【丹波篠山市】

多紀っ子応援隊による学校支援
学校・保護者・地域 / みんなが子育て / 楽しい地域の学校づくり

丹波篠山市立多紀小学校は、平成28年に、福住、大芋、村雲の３つの小学校が統合・合併して設立された、今年７年目を迎える学校です。校区や地域が異なる新しい学校で、地域の方は、多紀っ子応援隊として、様々な活動に取り組んでいます。

多紀小学校では、学校運営協議会とPTAを２本の柱として、学校・保護者・地域が協働した取組が進められています。

●地域のゲストティーチャーを招いた活動
・「黒豆のみそづくり」
・「地域の歴史を知ろう」
・「地域の歴史探検ツアー」
・「多紀っ子応援隊ギャラリー」など

活動の中で大切にされているのは、学校・保護者・地域が「当事者意識」を持って、自分たちで「楽しい地域の学校づくり」をすることです。

ふるさとの伝統文化（いのこ体験）

２つのワーキンググループで人材バンクとコミスク通信づくり
（学校運営協議会）

ここに着目

応援隊の活動を進めるに当たっては、学校運営協議会が大きな力を発揮しています。学校運営協議会では協議を行うだけでなく、地域の人のつながりを生かして、活動ごとに協力できる地域の人材を募って人材バンクを作ったり、定期的にコミスク通信を発行し、学校での活動を地域に広報したりして、地域の人々と学校の継続的な活動に向けて取り組んでいます。
これらの活動により、多紀小学校では「自ら動いて学校に関わる」保護者や地域の方が増えています。
また、学校でも「地域と関わる取組を自分で企画してみよう」という先生が増え、「学校・保護者・地域みんなが子育て」をする環境が作られています。

県内各地でさまざまな地域と学校が連携・協働した取組が行われています。兵庫県教育委員会では、市町が実施する、先進的な取組や地域の課題解決に向けた取組を支援するため、「地域と学校の連携・協働スキルアッププログラム」を実施しました（H29～R４）。また、県立学校では「兵庫県版コミュニティ・スクール」を試行しています。【表面】では、それらの取組の一部を紹介します。【裏面】では、学校運営協議会の導入推進、取組充実に向けた記事を特集しています。

地域の特徴を知る

【川西市】

未来をつなぐ防災学習
次世代に伝える / 防災の心

川西市立多田小学校区では、毎年、地域防災の活動や小学校での防災学習を実施しています。多田小学校区は猪名川の流域にあり、かつて河川の氾濫により被害を受けた経験から、地元の多田コミュニティ協議会の構成組織である多田自主防災会が主体となって、多田地域の風水害時における避難行動のあり方を数年かけて検討してきました。
そして今年初めて、１月17日の阪神・淡路大震災の日に、多田自主防災会と多田小学校が連携し、総合的な学習の時間や社会科、生活科の授業に合わせて、防災学習の取組を行いました。

ここに着目

多田自主防災会は、地震災害や、河川の氾濫などの風水害での避難方法や、「逃げ遅れゼロ」をめざして作成した、多田地区版「マイ・タイムラインシート」を家庭で使用するように、子どもたちへ呼びかけました。
このように、多田小学校区では、学校・家庭・地域が連携して地域防災の取組に注力し、子どもが安心して暮らせる防災環境づくりを推進しています。

防災訓練

マイ・タイムラインシートの使い方は
帰宅後に保護者に伝える

地域に支えてもらう

【養父市】

地域とつなぐ放課後子ども教室
全小学校区 / つながりづくり

養父市では、全ての小学校で年間を通して、放課後子ども教室を開催しています。
養父市では、少子高齢化が進む中、地域と子どもたちのつながりが弱くなり、自然や伝統文化・伝承遊びに触れる機会や集団で遊ぶ機会が少なくなっていました。
そこで、放課後子ども教室では、①ものづくり、昔遊び体験、②運動遊び、スポーツ活動、③体力向上（学びに向かう力）を3つの柱として開催し、小学1～3年生の150名程度が参加しています。

あやとり体験

ここに着目

市では、年間２回の研修会を実施し、「おすすめのプログラム」を共有するなど、新しいボランティアスタッフになる人が参加しやすく、取組を続けやすくなるための工夫に取り組んでいます。また、子どもたちが作った作品を、地域の文化祭に出展したり、学校で展示して教職員や来校者にも見てもらうようにするなど、取組を周知しています。

ボタンアート（学校展示）

地域とつながりをつくる

【 県立西はりま特別支援学校 】

県立学校における取組（兵庫県版CS）

兵庫県では、地域社会が「県立学校が推進する特色ある教育」を支援する体制をつくるため、学校が地域と協議・連携して活動する兵庫県版コミュニティ・スクール（地域連携強化校）を試行しています。

ようこそ光都０円ストアへ！
気軽に立ち寄れる/フードパントリー

県立西はりま特別支援学校は、たつの市新宮町、播磨地方の丘陵地、播磨科学公園都市にある学校です。子どもたちの居住地域から離れており、学校のことを地域に知ってもらう機会が少ないという課題がありました。また、コロナ禍で、子どもたちと地域のつながりは一層薄くなっているようでした。
そこで、西はりま特別支援学校では、県版コミュニティ・スクールの仕組みを利用して、人々が気軽に立ち寄れる場所としてフードパントリーの開催に取り組みました。

活動内容の相談

ここに着目

学校運営協議会のメンバーには地元のNPO法人や、相談支援事業所、児童家庭支援センター、市教育委員会が入っています。委員を通じて声をかけることで、「こどもボランティア」は西はりま特別支援学校だけでなく、地域の幼稚園や小中学校からも集まり、総勢30名ほどになりました。
ミーティングでは、「どんなお店を作るか」「どのようにお客さんに喜んでもらうか」について、年齢、性別、障害の有無を超えて話し合い、共に楽しみながら「お店づくり」を行いました。
生徒たちは、授業で余った木材を使って、お客さんに渡すプレゼントを作るなど、当日を心待ちにしていました。
令和３年度は集合形式で２回、令和４年にはドライブスルー方式で０円ストアを実施しました。
徐々に認知度も上がり、「次はいつ開催？」と問い合わせる声が上がるなど地域の方に心待ちにしてもらえる取組になっています。

ミーティングではアイデアを出しあう

０円ストアの様子（R3年度）

ドライブスルーで実施（R４年度）

特集 コミュニティ・スクールの導入推進・取組充実のために

地域住民が学校運営に参画する仕組みとしてのコミュニティ・スクール※1（学校運営協議会を設置する学校）は、全国的に導入校数が増加しています。教育委員会等が、コミュニティ・スクールの導入を進め、充実した取組を実現するためにはどうすればいいでしょうか。

※1『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第47条の5に基づいて、教育委員会が『学校運営協議会』を設置している学校を、「コミュニティ・スクール」といいます。

Q これまでも、地域と学校が連携した取組を進めてきました。コミュニティ・スクールになると、何が変わりますか？

A コミュニティ・スクールを進めることで、新たな魅力が生まれます

コミュニティ・スクールの3つの魅力

① 組織的・継続的な体制構築 ＝ 持続可能性

校長や教職員が異動しても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制をそのまま継続することができる「持続可能な仕組み」です。

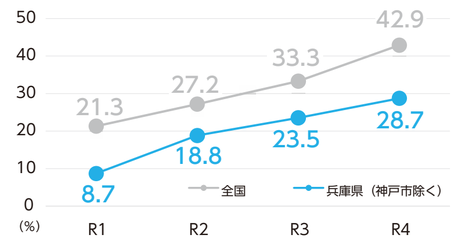
② 当事者意識・役割分担 ＝ 社会総掛かり

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して、関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができます。

③ 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

学校運営協議会や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できます。

公立学校※2のコミュニティ・スクール導入状況の推移



※2 幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校を指します。

グラフは、「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」（文部科学省）の結果より作成

導入に向けて

Q コミュニティ・スクールを導入するときのポイントは何ですか？

A 関係者の理解や信頼を得ることを意識して、導入計画を立案し、進めましょう

コミュニティ・スクールを導入・推進するスケジュール

教育委員会は、所管の学校と連携して、自治体の施策や「教育振興基本計画」に位置づけ、計画的・段階的にコミュニティ・スクールの導入に向けた取組を進めます。その際、地域住民を含め、関係者の理解と信頼を得ることが大切です。

導入前
- 家庭・地域への情報提供
- 推進の組織体制づくり
- 推進委員の選定・任命
- 推進会議の開催
- 先進校視察
- 部会組織づくり

「〇〇市学校運営協議会規則」の作成
▼
教育委員会会議で採決

導入1年目
- 管理職・教職員の研修
- 各組織・団体との連絡調整
- ボランティアの募集等

導入2年目
- 学校運営協議会委員の選定
- 地域コーディネーターの配置・活用の推進
- 家庭・地域への活動協力の呼びかけ
- 校務分掌と実働部隊の協働体制の強化
- 熟議の実施

研修の充実
- 管理職対象研修
- 教育委員会担当指導主事研修会
- 地域コーディネーター養成研修　等

Q コミュニティ・スクールでは、これまでと違った新しい仕組みが必要ですか？

A これまで培った取組や信頼関係を土台にして、発展させていきましょう。

既存の仕組みをベースに学校運営協議会へ

「学校評議員」、「〇〇型コミュニティ・スクール」等の類似の仕組み、様々な学校支援の取組等は、学校と地域と地域の協働・信頼関係の土台となる大切な取組です。それらをベースとし、段階的にコミュニティ・スクールにしていくことで、組織的・継続的な体制が構築され、従来の取組も一層充実していきます。

保護者や地域が学校運営に参画する持続可能な仕組み

コミュニティ・スクール
（学校運営協議会を設置した学校）

コミュニティ・スクールへの過渡的な段階

自治体類似の仕組み※2
（〇〇型コミュニティ・スクール）
地域住民や保護者等が学校運営や教育活動について協議し、意見を述べる会議体

※4 類似の仕組みとは、教育委員会の規則や、教育委員会の方針等に基づき学校が作成する要綱等により設置されている会議体で、校長の求めに応じた意見聴取にとどまらず、主体的に学校運営や教育活動について協議し、意見を述べることができる会議体のことです。

学校と地域の協力関係・信頼関係の土台

学校評議員制度　学校関係者評価委員会

これまで取組で培われた協働・信頼

＊文部科学省『コミュニティ・スクールのつくり方（学校運営協議会設置の手引き）令和元年度改訂版』を参考に作成

導入に向けて

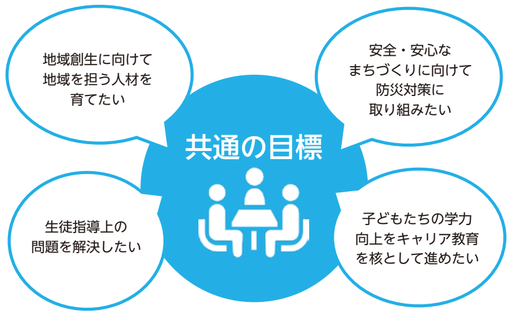
Q 学校運営協議会の設置に向け、どんな準備をすればいいですか？

A 学校と地域が教育に関する「共通の目標やビジョン」を持ちましょう

ビジョンや課題を全員で共有し、共通の目標を設定しましょう。

近年、学校や地域が抱えている課題は複雑かつ多岐にわたっており、学校だけ、地域だけで解決することは難しくなっています。そのため、学校は地域の意見を取り入れ、地域との連携・協働を図りながら教育活動を展開していく必要があります。

まずは、学校と地域が「子どもたちがどのような課題を抱えているのか」という実態を共有し、「地域でどのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか」という共通の目標やビジョンを持つために、熟議（熟慮と議論）を重ねましょう。



A 共通の目標やビジョンの実現に向け、組織づくりを進めましょう

学校や地域の実情に応じた組織づくりを行いましょう。

学校運営協議会を組織するには、教職員・保護者・地域住民に対して、設置した目的や仕組みなどの理解を図る必要があります。また、小中一貫教育の組織や学校評議員等の既存の仕組みを生かすなど、学校や地域の実情に応じた組織づくりを行います。

その上で、共通の目標やビジョンのもと、学校運営に地域の人々が「参画」し、共通の目標に向けて「協働」して活動していきましょう。

▼

学校は、校長のリーダーシップのもと、目指すべきビジョンの達成に向けて、地域との関係を作り上げ、地域人材や資源等を生かした学校運営をしていきましょう。

【県の取組】地域連携アドバイザー派遣をご活用ください

県では、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じ、地域と学校が連携・協働する仕組みの円滑な実施に向けて、「地域連携アドバイザー」を派遣して、研修や運営を支援する制度を始めました。

〇地域の方や教職員に理解にしてもらうにはどうしたらいいですか？
〇学校運営協議会の委員は、どんな人を選んだらいいですか？
〇地域の協力が見つかりません。どうしたらいいですか？

お困りのことをアドバイザーに相談してみませんか？
（問合せ先　県教育委員会事務局社会教育課）

充実に向けて

Q コミュニティ・スクールの導入により、学校の授業はどう変わりますか？

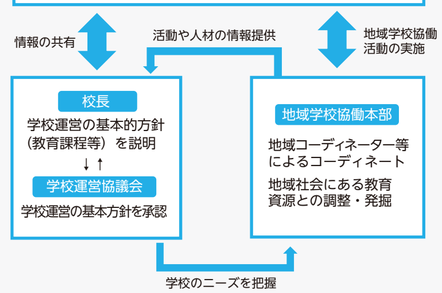
A 「地域の力」は、「社会に開かれた教育課程」の実現を後押しします。

現在、実施されている学習指導要領の柱の一つが、「社会に開かれた教育課程」です。社会とのつながりの中での学びは、生徒に「実感」を与えてくれます。学校と地域をつなぐ「コミュニティ・スクール」は、「授業」の質を高め、生徒の「生きる力」を育む、大切な仕組みなのです。

高等学校や特別支援学校では、地域をどう捉えたらいいですか？

学校区が広域である高等学校や特別支援学校等では、「地域」をより柔軟にとらえて考えることができます。立地上の地域（エリア・コミュニティ）だけでなく、それぞれの学校の教育目標や内容にかかわる地域（テーマ・コミュニティ）の双方の側面を生かして考えることができます。

「社会に開かれた教育課程」
① これからのよりよい社会を作るよりよい学校教育とは？
② これからの社会を作っていく子どもたちが身につけるべき資質・能力とは？
③ 目標を達成するために、どのように社会との連携を行っていくか？



地域と共にある学校づくり推進フォーラム2022兵庫 ～正しく学ぶこれからのコミュニティ・スクール～

令和4年6月11日、兵庫県は文部科学省等とともに、学校と地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて、フォーラムを開催しました。

フォーラムでは、川西市立東谷中学校のコミュニティ・スクールの様子が、オープニング・ムービーで紹介されました。また、パネルディスカッションでは、「正しく学ぶ　これからのコミュニティ・スクール」というテーマで明石市立朝霧小学校、丹波市立南小学校の学校運営協議会メンバー等が登壇し、自校の取組を発表しました。

朝霧小学校では、学校運営協議会の委員とともに取り組んでいる、地域学習「朝霧学」の活動について発表がありました。南小学校からは、地域学習や子どもたちの安全・安心を守る取組など、学校運営協議会の協議をもとに、幅広く地域学校協働活動が行われていることが紹介されました。

フォーラムの様子は、文部科学省のHPから動画視聴できます。ぜひご覧ください。

（パネルディスカッションの様子）